

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893001004		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家武庫之荘		
所在地	尼崎市武庫之荘5-13-12-2		
自己評価作成日	令和5年9月22日	評価結果市町村受理日	令和5年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2893001004-008&ServiceCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和5年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・四季を大切に、施設行事に力を入れています。施設内外問わず様々な企画を行っています。ご家族様や地域住民との交流機会も定期的に設けています。ボランティアの受け入れも実施。 ・手作りでの調理を基本に、食材にこだわった食事の提供を行っています。 ・面会・外出・外泊は事前予約制であり、ご要望に応じオンライン面会も柔軟に対応しています。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を実行する為にグループの小規模多機能の施設と共に歌や踊りのボランティアの受け入れやホーム主催の夏祭り等地域と共に盛り上げ、介護施設ここにありとの姿勢を示し、介護を地域と共に対応すべく積極的な姿勢を示している。ホームではいちばん重要な食事にも家庭的な手作りの食事を提供し、四季に応じて行食事や弁当を外部にお願いする等利用者の要望に応じて喜んで頂けるように力を入れ喜ばれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	第三者評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年1回事業所理念のスタッフと共に見直しを行い、目標設定の後、施設内にポスター掲示と事業所での会議で発信し理念の実現に向け取り組んでいます。	理念は「家庭的な生活で自分らしく、楽しく、生きるをもとに生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流を軸に実践していくことを」としフロアミーティングで確認・共有し館内エレベーター横、更衣室等に掲示しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを少しずつ受け入れており、1階小規模多機能型住宅介護と合同でのイベント開催で地域の方々との交流を図っています。	歌や踊りのボランティア様の受け入れや、タノムコ(楽しむ武庫之荘)介護教室と名付け、地域の方々と一緒に介護に関連する技術、知識等を一緒に地域の方と学ぶ機会を4月から企画し2回/年実施し地域にホームの存在感を知らせている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向け、介護教室の開催や認知症サポーター研修の開催を行っています。また、事業所見学時にもお困りごとのご相談やサービス提案等をさせていただいています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で評価していただいた内容やご助言に関しては、スタッフ内で情報共有を行い、次回の運営推進会議でフィードバックさせていただいております。	令和5年4月から少人数で対面式で開催し、地域代表・家族(2~3名)民生委員・地域包括、ご入居者、ケアマネジャー等のメンバーで会議を実施し、運営に反映させている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所内での困りごとは、市の担当者と迅速に連携を図るよう努めており、事故に関しても迅速に報告しております。また、9月より市の介護相談員の受け入れも行っていきます。	事故発生や感染症発生等があった際、速やかに尼崎市法人指導課へ電話・FAX等で連絡しております。感染症に罹患されたご入居者は主治医と連携し基本施設で対応を行い、感染マニュアルに基づき対応しています。今年に利用者・職員全員罹患しましたが対応に努め、大事には至らなかった。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のフロア会議で、身体拘束防止における事案を検討し、防止策を考えています。また、オンライン研修を全従業員が受講しています。	2ヶ月に1回、民生委員・地域包括、ケアマネジャー管理者が参加し、身体拘束適正化委員会を実施しております。現状、事案はなく、年2回オンラインにて研修を受けている。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会の開催や、オンライン研修を通じて不適切ケア防止に努めています。また、定期的にチェックシートや個別面談を活用し、虐待防止に努めています。	2ヶ月に1回、民生委員・地域包括、ケアマネジャー管理者が参加し、虐待防止委員会を実施しています。また、年2回オンラインにて全職員が研修受講し、主旨は十分に理解されている。何か問題があれば管理者を通じて注意している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を扱っている事案や、今後必要性がある入居者様について社会福祉協議会、地域包括等と連携しています。	現在、1名利用されており、地域包括支援センターより電話や対面での助言や、成年後見支援センターのご担当者様と対面等で制度について説明を受け、制度の理解を深めています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、家族様には入居前に、不安点や疑問点に配慮しながら契約の説明を行っています。	重要事項説明書や重度化対応・看取りに関して、説明しております。また、入居後も状態変化があった際・制度改正・介護度変更時にも、主治医・ホームと連携して説明、ご家族同席のもとカンファレンスもされている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、顧客満足度調査を行っており、課題に対し改善できるよう努めています。また、電話の機会や面会時に要望等を確認し反映できるよう努めています。	家族よりは楽しみの企画やリハビリやADL低下による訓練等の要望があり担当者よりフロアーリーダーへ管理者へと情報が流れ検討され、反映出来るように努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従業員満足度調査を年1回行っており、課題に対し改善できるよう努めています。また、日頃や会議で従業員の意見を吸い上げるよう努めています。	毎月フロアー会議が実施され活発な意見交換がされて運営改革に反映されている。又管理者は年2回以上個人面談をし、要望等を確認、職員とのコミュニケーションもよく良いチームワークが取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度、誰伸び人事制度を設け成長できる機会を促進しています。また、法人内のグループと連携し資格取得支援も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が毎月研修できる機会を設けており、法人外への研修参加も促しています。また、新人職員へは育成マニュアルの活用やオンライン研修参加の機会を促し、育成を行っています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、法人内でのオンライン会議等を行い、顔を見える関係を作ることができています。また、近隣同業者とも連携できるSNSのコミュニティにも参加しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者、計画作成者がアセスメントを行い、本人様の不安やお困りごと等を傾聴し、サービスに繋げています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、管理者、計画作成者がアセスメントを行い、家族様の介護においてのお困りごとや要望等を聞き、サービスに繋げています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、法人内外問わず提案を行っております。また、情報提供できるよう市のパンフレットも設置しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、買い物等できることはできるだけご自身で行っていただくよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンライン面会や対面面会、家族様付き添いの外出等を実施しており、関係性が継続できるよう支援しています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご希望者は、ご自宅で親戚等集まったり、身内にご不幸があった際はお会いできる機会も協力しています。	月1回以上、帰宅し、ご家族と談話する時間を設けている入居者様が1名いる。また、外食やお墓参りに行きたいというご要望にも応じ、ご家族と共に外出される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる能力を活かし、お互いに助け合える、支え合える関係性作りができるよう支援しています。		

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、電話にてご連絡を行い、ご家族の体調も気にかけてたり、施設イベントのご案内も行っていきます。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や入居時からのご本人やご家族様の希望、意向を大切に、支援しています。	入所前に、本人の生活史シート(年代別の関わりや出来事、呼び方等)と一日の過ごし方(長年馴染んだ過ごし方、現在の過ごし方)、趣味や得意なことの情報を聞き取り、居室担当中心に意向を大切に支援に当たっている。入所後は担当者が支援の中で聞き取り反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、今までの生活歴や馴染みの暮らし方等聞き取りを行い、新入社員にもご家族様からいただいた情を共有しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝バイタル測定を行い、健康状態の把握に努めています。何か体調変化があった際は、職員内で情報共有、各関連機関への相談も行っていきます。			
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、課題やケアのあり方について入居者様毎に話し合いを行っています。家族様へは面会時、電話時等に聞き取りやご相談を行っています。	家族との交流や地域との交流が少しずつ増えてきているので、家族参加の行事(夏祭り)やボランティア(オーケストラの演奏)、オンラインコンサート(矢代亜紀)等を計画に入れている。コロナ禍による身体機能に変化があった利用者もおられ、状態に応じて計画を作成している。家族とは面会時や、電話等で必ず意向を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等は、個人記録に反映するよう努めています。介護計画の見直しが必要になった際は、計画作成者と都度相談をしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージの利用や、必要に応じて他機関の病院紹介、また併設の小規模多機能型居宅サービスとの連携(イベント参加)も行っていきます。			

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季を感じる事ができる場所へ、外出することを大切に、毎月様々な企画に挑戦しています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望に応じた、かかりつけ医と連携を図り、適切な医療が受けられるよう情報提供シート等を用いて情報共有を行っています。	全員、24時間オンコール対応の協力医療機関(立花みどりクリニック)の医師をかかりつけ医としており、月2回の医師の往診と週1回の看護師の訪問を受けている。その他、希望により歯科の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師と連携を図りながら、日々のケアや緊急時の対応等の相談連絡を都度図っています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時等の調整が円滑に行えるよう、入院前の情報提供や退院前のアセスメント等をご家族様や地域連携室と密に連絡を図るよう努めています。	入院はかかりつけ医の紹介により、スムーズに行えている。コロナ禍で入院先では対面では会うことはできていないが、地域連携室の相談員と電話や窓口で直接話をしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に看取りの意向確認を行い、入居後も意向の変化等があった際は主治医、家族様等との話し合いの場を設ける調整も行っていきます。	入居時に、「重度対応・終末期ケア対応に係る指針」について説明し、「急変時・終末期における医療等に関する意向確認書」に署名して頂いている。全職員、かかりつけ医の病院の看護師による看取りの研修を受けている。今年度(開設以来初めて)、1名の方の看取り介護が行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の緊急時対応研修を受講している。新入社員にも対応方法について、マニュアルを共有し誰でも対応できるよう環境を整えています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っています。消防から消火器を借りた訓練なども入居者と共にしています。	年2回、昼と夜の火災を想定して、避難・通報・連絡等が慌てず行えるよう消防訓練を行った。新入社員へは都度防火管理者より直接説明を行っている。消防署には立ち入り検査時に助言をもらっている。近隣の民生委員に声をかけ緊急時には応援してくれる体制を整えている。	水害等の災害に対して対策や垂直避難の実際の訓練等を実施していけることを期待します。

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは、一人一人丁寧に行うよう対応しています。接遇マナー研修も全職員が受講しています。不適切ケア防止に向け、都度個別面談等も行っていきます。	一人ひとりが言葉づかいに配慮しながら対応している。言葉づかいに関して、接遇マナー研修も年1回以上開催し、対応改善に努めている。同性介助は本人や家族の希望等あった場合、要望に応じている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや選択や、衣類の選択等、本人が意思決定できるような関わりを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや過ごし方を、本人目線で考えるよう努めており、毎月のフロアミーティングやご家族様と協議する機会を作っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季に応じた衣服と入居者様のこだわりや趣向をもとに衣服と一緒に選択しています。本人から要望があった際は、ご家族様にもご協力していただいております。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付け(食器洗いや食器拭き、お盆拭き、テーブル拭き等)は入居者様と一緒にしています。	献立と食材は専門業者を利用している。食事は手作りを基本とし、手作りおやつの日もある。誕生日には近隣のケーキ屋を活用したり、行事食等は要望に応じ献立を考案している。その他、出前や家族との外食を楽しまれている。各フロアに2名程の利用者が食事のお手伝いをしてきている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事量を把握し、水分提供方法や食事形態などの工夫を行い提供を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、訪問歯科と連携し口腔内の清潔保持に努めています。			

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、トイレでの排泄を促し、ご自身でできる排泄動作はご自身で行っていただくよう促しています。	本人の身体機能、意思に応じて、できるだけトイレで排泄ができるようスタッフで介助方法や声掛け等工夫しながら対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に、乳製品やバナナの提供を行い、午前中は体を動かす時間を作り便秘の予防を図っています。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ケアプランに沿った、入浴提供をしており、体調や本人の気分などに合わせ対応しています。入浴剤の活用や、浴後の保湿クリーム等使用した対応など心がけています。	基本的には週2回以上の入浴となっている。体調や気分に合わせて、入浴を楽しんでもらうように声かけや誘導方法を工夫している。浴槽に入れる方は半数、残りの方はシャワー浴(足浴とともに)となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じ、お昼寝できる環境を整えています。また、夜間も室温管理の支援を行い、安眠できる環境のサポートを行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	落薬事故や飲みこぼしがないよう最後まで確認しています。また、病状の変化があった際は、主治医、薬局等と連携を図り対応しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が習慣化してきたことは、できるだけ継続できるよう支援しています。楽しみごとや気分転換ができる機会を増やしていきたいと考えています。			
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に少数ですが近隣のスーパーやケーキ屋に一緒に行く機会も設けています。また、ご家族様協力のもと近隣の散歩等の支援もしています。	コロナの分類変更後、面会・外出頻度は増加している。気温や天候に応じ、散歩ができる日は目の前の公園等活用している。家族と一緒にの外出や自宅へ帰られる方もおられる。初詣や花見に出かけた。今後、車2台を利用したグループでの外出や一人一人の外出を増やしていきたいとしている。	目の前に公園があり、散歩には便利な場所にあるが、スタッフと利用者が外出する機会が少ない。家族が面会を頻繁にしてくれる方はよいが、家族の面会が少ない方は、スタッフとの外出機会を増やして、外の空気にふれることを期待します。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売を施設駐車場に誘致し、買い物ができる機会を定期的に試みています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方は、自身で家族・知人等とお電話をされており、その他の方は施設のお電話にてご家族様とやりとりする機会も設けています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で居心地よく過ごせるよう、毎日共有空間の清掃活動行っています。また、四季に応じて壁に装飾品を飾ることもしています。	毎日、共有部分の清掃活動に取り組み、利用者(数名)と共に一緒に手すりを拭いたりする等、清潔環境が保てるよう努めている。季節に応じた、装飾品を利用者と一緒に作り、壁に掲示する等している。行事や事業所での様子の写真を壁に貼るなどして、面会に来られた家族への情報提供にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置やテーブルや椅子を動かしたりするなど、入居者様同士でくつろぎ談話できる場を設けています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や布団、置物、写真等、持ってきていただき不安なく快適に過ごせよう支援しています。四季に応じて、衣服の相談も行っています。	居室清掃は毎日行い、利用者が過ごしやすい環境を提供できるよう努めている。また、面会は居室面会を基本としている為、最近の様子が分かる写真等も飾っている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計や日付等、各場所に設置し自身で一日の行動が決定できるよう支援しています。使用方法等が分からない方へは介護者声掛けを行いサポートを行っています。		

基本情報

事業所番号	2893001004
法人名	
事業所名	グループホームたのしい家武庫之荘
所在地	尼崎市武庫之荘5-13-12-2 電話 06-6437-0221

【情報提供票より】令和 5年 9月 22日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	令和1年8月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名				
職員数	17 名	常勤	13 名	非常勤	4 名	常勤換算	14.8 名

(2) 建物概要

建物構造	併設型
	鉄骨造り 3階建ての2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	83,000 円	管理費(光熱水費・共益費)	32,500円	
敷金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり1,100 円			

(4) 利用者の概要(令和 5年 9月 22日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	立花みどりクリニック ・尼崎医療生協病院 ・西宮きづき歯科クリニック ・介護老人保健施設たいも
---------	---

目標達成計画

作成日 2023.11.17

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水害発生時には第一次避難場所までの全員避難は難しく、垂直避難になると思われるが、避難方法や訓練の実施まで行えていない。	今後は、ハザードマップなどを利用し、水害発生時の被害規模の把握を職員に周知し、避難経路の周知、訓練の実施を行う。	施設の壁などに水害発生した時の浸水予想位置を付け、日頃から水害が発生した場合の浸水位置を把握し、危機感を持って避難できるよう、訓練も行っていく。	12ヶ月
2	49	転倒リスクの高い入居者様も多く、職員の見守りが必要である為、なかなかフロアを離れて散歩や買い物に出かけることが難しい。	フロアを少ない職員でも見守りが出来る時間を作り、散歩などに行く時間を作っていく。	職員間で話し合いを行い、短い時間でも少ない人数で見守りできる時間を作り、目の前の公園や、ちょっとした買い物と一緒に出かけられるような時間を作り出かける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。